

小笠原諸島周辺海域における海上保安体制の強化について

背景

- 小笠原諸島周辺海域においては、平成26年9月から翌年1月にかけて、中国サンゴ漁船が多数確認（最大200隻以上）
- 離島・遠方海域における業務執行体制を強化するため、小笠原保安署に巡視船を配備する必要

小笠原海上保安署の現状



小笠原海上保安署 職員数6人



※H26.9以降：中国サンゴ漁船合計10隻(11人)を検挙

小笠原海上保安署の体制強化

◎ 巡視船の配備に向けた必要施設の整備

- ・ 平成29年度予算
建設予定地の敷地調査費等 **約16百万円**
(平成28年度予算：巡視船配備に係る調査費用 約2百万円)

体制強化に伴う課題

- ◆ 係留岸壁（給水・給電設備含む）の確保
- ◆ 運航に必要な燃料等の確保
- ◆ 施設の建設用地、建設作業員の確保

整備予定施設

- ◆ 巡視船乗組員の宿舎
- ◆ 船艇用品庫

二見漁港（父島）周辺位置図

